

子どもたちの健やかな心を 育むために



近年、子どもたちの生活習慣の乱れや学習意欲・体力の低下、さらにはいじめや不登校などが大きな社会問題となっています。
私たちが共通の宝である子どもたちの健全育成は、社会全体で取り組むべき課題。子どもたちの伸びやかな成長に日々力を注ぐ皆さんの活動を紹介しながら、私たちにできることを考えます。



倉吉市立東中学校での「赤ちゃん登校日」。命の尊さが生徒たちに肌で伝わります

学校に赤ちゃんが

赤ちゃんとのふれあいが育くむ心
NPO法人「未来」

「赤ちゃんって、こんなにかわいいんだ」小さな赤ちゃんを抱く中学生たちに笑顔があふれます。そして「どうして泣いているんだろう。おなかがいっているのかな」と、ミルクを与えたりオムツを替えたりと、赤ちゃんの保護者から助言を受けながら一生懸命。

この日は、倉吉市立東中学校での「赤ちゃん登校日（ふれあい会）」。

地域の赤ちゃんや保護者たちが学校に訪れ、お互いに楽しい時間を過ごします。



赤ちゃんへの接し方などを指導する高塚人志鳥取大学医学部准教授(写真上)「人との関わりは赤ちゃんにとって心の発達の基になります」と松田さん。

を通じて、子どもたちに命の尊さを心と肌で感じてもらう「赤ちゃん登校日」は、NPO法人「未来」(倉吉市)がコーディネートする取り組み。地域などと連携しながら、県内各地の小中学校で実施しています。

実施に当たっては、大学の先生や子育て専門家などをアドバイザーに迎え、事前に生徒たちにマナーやコミュニケーションなどを指導。また、生徒たちは赤ちゃんとのふれあいながら、保護者の皆さんとも言葉を交わすことで、人との関わり方も学んでいきます。

さらなる人材の輪を

「言葉を話せない赤ちゃんの表情や仕草から思いを察する。そうした体験から、他人の気持ちを理解する能力が培われます」と話

すのは、「未来」副理事長で、小児科医でもある松田隆さん。赤ちゃんとのふれあいが、子どもたちの思いやりの心の育成につながるのだそう。

さらに、保護者の皆さんにとっても喜びが。生徒たちが赤ちゃんをかわいがる姿を見ることで「わが子を改めてかわいい、愛しいと実感できるんです」と笑います。

学校や地域からも好評のこの「赤ちゃん登校日」、取り組みをより広げたいと、「今年度、アドバイザーやコーディネーターの養成研修を行っていきます。皆さんもぜひ申し込みを」と呼びかける松田さん。子どもたちを健やかに育てる人材の輪は、これからさらに広がりをみせそうです。

問合せ先 NPO法人「未来」
電話0858-22-9791
<http://www.npo-mirai.net>